

アイワ株式会社

お問い合わせ先

お客様相談センター

東京 ☎03(3971)7981

〒164 東京都中野区東中野1-11-6

大阪 ☎06(744)7509

〒577 東大阪市長田西3-57



この取扱説明書は
再生紙を使用しています。

85-HM1-901-110
960108BNS-O-D

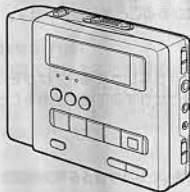
aiwa

ミニディスクレコーダー

AM-F3

取扱説明書

OPERATING INSTRUCTIONS



お買い上げいただき、ありがとうございます。

正しくお使いいただくために、この取扱説明書を
よくお読みください。

お読みになったあとは、保証書とともに大切に
保存してください。



安全にお使いいただくために

アイワではお客様に安全な製品をお届けできるよう「安全設計」に取り組んでおりますが、誤った使いかたにより、火災や感電などの大きな事故につながる場合があります。このような事故を防ぐために、はじめに次の注意事項をよくご理解のうえ、必ずお守りください。

取扱説明書には、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階の注意事項を表示しています



危険

この表示の注意事項を守らなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が差し迫って生じることを示しています。



警告

この表示の注意事項を守らなかった場合、死亡または、重傷を負う可能性があることを示しています。



注意

この表示の注意事項を守らなかった場合、けがをしたり、物的な損害を受けたりする可能性があることを示しています。

本製品の故障、誤動作または不具合により、録音や再生などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害などについては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



警告

本機は日本国内用です

付属のACアダプターを交流100ボルト (AC 100V) の家庭用電源コンセント以外にはつながないでください。異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



分解したり、改造したりしない

感電の原因となります。また、レーザー光が目にあたると視覚障害を起こす原因となることがあります。



水をかけない

内部に水が入ると感電の原因となります。風呂場、または水辺や雨天時の屋外など、本機に水がかかるような所では使わないでください。



自転車に乗るときやバイク、車の運転中は絶対にヘッドホンを使わない

周囲の音が聞きにくくなり、また交通への注意が散漫になるため、交通事故の原因となります。

歩きながら使うときも周囲の交通には十分ご注意ください。



修理のご依頼を

故障のまま使い続けると、火災や感電、けがの原因となります。

次のような症状がみつかったら

- 一異常な音や臭いがある、煙が出ている
- 一内部に水や異物が入った
- 一本機を落とした、本機の一部を破損した
- 一正常に動作しない
- 一ACアダプターが異常に熱くなった。(使用中にACアダプターが温かく感じられるのは故障ではありません。)



ACアダプターを電源コンセントから抜き、お買い上げ店またはアイワのお客様相談窓口にて修理を依頼する



プラグを抜く



注意

湿気やほこりの多い所、油煙や湯気のアたる所、暖房器具のそばや直射日光のアたる所に置かない

火災や感電の原因となることがあります。



窓を閉めきった自動車内に放置しない

車内が100℃にまで達することがあり、故障の原因となったり、また、火災の原因となったりすることがあります。



ACアダプターを正しく使う

ACアダプターによる火災や感電による事故を防ぐために、次のことをお守りください。

- 一本機以外に使わない
- 一布や布団でおおったり、包んだりしない
- 一熱器具に近づけない
- 一使い終わったら、電源プラグをコンセントから抜く
- 一取り外すときは、コードを引っ張らずにACアダプター本体を持って抜く
- 一濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



ヘッドホンで聞くとときは適度な音量で

耳を刺激するような大きな音量で長時間聞かないでください。聴力障害の原因となることがあります。また、電車の中など人が多く集まるような所は、ヘッドホンからの音漏れが気になります。周囲の人の迷惑にならないよう、音量の上げ過ぎにはご注意ください。



はじめに音量を最小にする

ヘッドホンから突然大きな音が出て聴力障害の原因となることがあります。



お子様の手の届かない所へ

ミニディスクの挿入口に手を入れると、けがの原因となることがあります。とくに小さなお子様には、手の届かない所に置くなど、気を付けてあげてください。



充電電池を安全にお使いいただくために

リチウムイオン充電電池による漏液、発熱、破裂による事故を防ぐために、次のことをお守りください。

⚠ 危険

- 付属のACアダプター以外で充電しない。
- 本機以外の機器に使用しない。
- 火中への投入、加熱をしない。
- ショートさせない。特に、金属の小物（ボールペン、ネックレス、コイン、装飾品など）と一緒に携帯または保管しない。
- 火のそばや炎天下などで使用、放置、充電しない。
- 変形させたり、分解や改造をしたりしない。

⚠ 警告

- 所定の時間を超えて充電しない。
- 電子レンジや乾燥器などに入れない。
- 液が漏れたり異臭がするときは、すぐに火気より遠ざける。

万一液漏れしたら

液が皮膚や衣類に付着した場合は多量の水で洗い流してください。また、目に入った場合はすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

乾電池を安全にお使いいただくために

乾電池による漏液、発熱、破裂による事故を防ぐために、次のことをお守りください。

⚠ 警告

- 火中への投入、加熱、分解をしない。
- ショートさせない。
- 充電しない。

⚠ 注意

- ⊕、⊖の表示どおりに入れる。
- 指定以外の電池を使わない。
- 種類の違う電池、または新しい電池と古い電池を混ぜて使わない。
- 使い切った電池はすぐに取り出す。
- しばらく使わないときは取り出しておく。

万一液漏れしたら

液をよくふき取ってください。また、液が皮膚や衣類に付着した場合は多量の水で洗い流してください。

主な特長

高音質のデジタル録音・再生機能

音質をそこなわず、お気に入りの音楽を何度でも録音・再生することができます。

長時間録音を可能にするモノラル録音

74分の録音用ディスクを使えば最長で148分の長時間録音ができます。会議の録音などのビジネスユースに活躍します。

早聞き再生機能

通常の約2倍の速さで、しかも聞き取りやすく再生することができます。

多彩な編集機能

曲と曲をつなぐコンパイン機能、曲を2つに分けるディバイド機能、曲番を変えるリナンパー機能、録音した内容を消すイレース機能を使って、自分だけのオリジナルディスクが作れます。

トラックネーム・ディスクネーム機能

曲やディスクごとに名前を記録することができます。

3つのトラックマーク機能

再生時に聞きたいところをすばやく見つけだすのに便利なトラックマーク（頭出しマーク）を、3つの方法で記録できます。

オートマーク機能：録音ソースに合わせて頭出しマークを自動的に記録します。

タイムマーク機能：5分ごとに頭出しマークを記録していきます。会議などのモノラル録音時に最適です。

マニュアルマーク機能：録音しながら希望のところに頭出しマークを記録できます。

その他

- バックライト付き大型液晶ディスプレイ
- 操作するボタンが光るイルミネーションキー
- 新型電池残量（BATT）シグナル

付属品

本機には次のものが付属しています。お使いになる前に確かめてください。



リモコン付きステレオヘッドホン (1)



ACアダプター (1)



充電電池 (1)



バッテリーケース (1)



充電電池カバー (1)



キャリングポーチ (1)



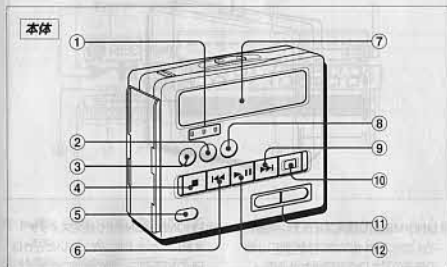
イヤークリップ (1組)



接続コード (1)

図のように取り付きます

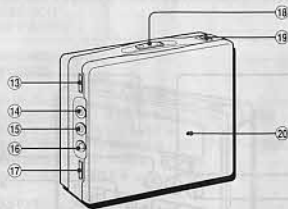
ここではボタンやスイッチの基本的な働きを説明しています。



- ① **BATT** シグナル：電池残量を表示します。
- ② **MODE** ボタン：録音や再生、編集の方法を選びます。
- ③ **DISP** ボタン：表示を切り換えます。バックライト機能の入り切りを切り換えます。
- ④ **■** ボタン：録音や再生を停止します。停止したあと、何も操作せずに4秒以上たつと電源が切れます。
- ⑤ **DSP/SHIFT** ボタン：再生する音楽の種類に合った音を選びます。また、曲やディスクに名前を付けるときに、文字の種類をアルファベットの大文字、小文字、カタカナ、記号の中から選んで切り換えます。
- ⑥ **⏮** ボタン：再生中の早戻しや曲の頭出しをします。
- ⑦ **表示窓**
- ⑧ **EDIT/ENTER** ボタン：編集を始めるときに **▶||** ボタンと同時に押します。また、演奏、録音方法や編集操作を設定します。
- ⑨ **⏭** ボタン：再生中の早送りや曲の頭出しをします。
- ⑩ **REC** ボタン：録音を始めるときに **▶||** ボタンと同時に押します。
- ⑪ **VOLUME (+/-)** ボタン：音量を調節します。また、曲やディスクに名前を付けるときに文字を選びます。
- ⑫ **▶||** ボタン：録音や再生を始めたり、一時停止をします。

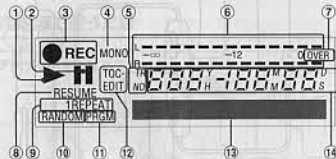
準備	各部のなまえと働き	9
	電源について	13
	時計を合わせる	19
録音する	録音の種類と接続	21
	基本の録音	24
録音の便利な機能	オートマーク機能	29
	5分ごとに頭出しマークを記録する (タイムマーク機能)	30
	頭出しマークを付けずに録音する	31
	録音中に頭出しマークを追加する (マニュアルマーク機能)	32
	長時間録音する (モノラル録音)	33
	ねらった音だけを録音する	34
基本の再生	基本の再生	35
	音楽ジャンルに合った音を選ぶ (DSPモード)	37
いろいろな再生のしかた	くり返し再生する (全曲リピート/1曲リピート再生機能)	39
	曲順を変えて再生する (ランダム再生機能)	39
	好みの曲順で再生する (プログラム再生機能)	40
	曲名で探して再生する (インデックスサーチ機能)	41
編集する	曲やディスクの名前を記録する (トラックネーム/ディスクネーム機能)	43
	2つの曲を1つにする (コンバイン機能)	46
	曲を分ける (ディバイド機能)	47
	曲の順番を変える (リナンパー機能)	48
	曲を消す (1曲リリース/オールリリース機能)	49
便利な使いかた	誤操作を防ぐために (ホールド機能)	51
	文字 (液晶表示) の濃さを変える	52
	音量を上げすぎないために (イヤガード機能)	53
	前に止めたところから再生を始める (リジューム再生機能)	54
	表示窓の照明をつける (バックライト機能)	55
	MDの音を他の機器で聞く	56
	車の中で聞く	56
その他	正しくお使いいただくために	57
	ミニディスクとは?	58
	故障かな?と思う前に	60
	エラーメッセージ一覧	62
	主な仕様	64
	保証書とアフターサービス	66
8	OPERATING INSTRUCTIONS	67

本体



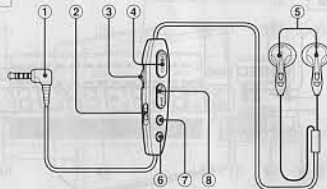
- ⑬ LINE/MIC切り換えスイッチ：本機にマイクをつないだときはMIC側に、他の機器のアナログ音声出力 (LINE OUT) 端子をつないだときはLINE側に切り換えます。
- ⑭ OPTICAL IN/LINE IN/MICジャック：他のデジタル/アナログ機器、またはマイクをつなぎます。
- ⑮ LINE OUT/PHONESジャック：他のアナログ機器の音声入力端子につなぎます。また付属のリモコン付きヘッドホンをつなぎます。
- ⑯ DC 4.5Vジャック：付属のACアダプターをつなぎます。
- ⑰ PHONES/LINE切り換えスイッチ：本機に、ヘッドホンをつないだときはPHONES側に、他の機器の音声入力端子をつないだときはLINE側に切り換えます。
- ⑱ EJECT ▲/HOLDスイッチ：ディスクホルダーを開けるときは、EJECT ▲側に、本体ボタンの誤操作を防ぐときは、HOLDの位置にします。
- ⑲ RELEASEつまみ：矢印の方向にして充電電池やバッテリーケースを本体からはずします。
- ⑳ ◀ RESETスイッチ：時刻や、ディスクから読み取った情報の記憶などを、すべて取り消します。シャープペンシルの先などで押してください。

表示窓



- ① ►表示：録音、編集、再生中に点灯します。
- ② ||表示：一時停止中に点灯します。
- ③ ●REC表示：録音中に点灯します。
- ④ MONO表示：長時間モノラル録音/再生中に点灯します。
- ⑤ TR NO表示：曲番を表示していると点灯します。
- ⑥ レベル表示：録音中は録音入力レベルを、再生中は再生レベルを表示します。
- ⑦ OVER表示：録音入力レベルを高く設定しすぎると点灯します。
- ⑧ RESUME表示：リジューム機能が働いていると、再生の始まる直前に点灯します。
- ⑨ REPEAT/1 REPEAT表示：それぞれ、全曲リピート再生中、1曲リピート再生中に点灯します。
- ⑩ RANDOM表示：ランダム再生中に点灯します。
- ⑪ PROGRAM表示：プログラム再生中に点灯します。
- ⑫ TOC-EDIT表示：録音や編集を始めるると点灯し、録音や編集した内容についての情報 (TOC) の記録が終わると消えます。
- ⑬ 文字情報表示：ディスクのタイトルや曲名、選んだ編集方法、エラーメッセージなどを表示します。
- ⑭ 時間/時刻表示：曲の再生時間や曲の残り時間、ディスクの残り時間、録音日時、現在時刻を表示します。

リモコン



① 接続プラグ：本体のLINE OUT/PHONESジャックにつなぎます。

② HOLDスイッチ：リモコンボタンの誤操作を防ぎます。

③ VOLつまみ：音量を調節します。また、曲やディスクに名前を付けるとき、文字をすばやく選びます。

④ ■ボタン：録音や再生を停止します。
▶▶ボタン：録音や再生を始めたり、一時停止をします。

⑤ ステレオヘッドホン：図のように長いほうのコードを首の後ろに回して使います。



⑥ DSP/SHIFTボタン：再生する音楽の種類に合った音を選びます。また、曲やディスクに名前を付けるときに、文字の種類をアルファベットの太文字、小文字、カタカナ、記号の中から選んで切り替えます。

⑦ REC/EDITボタン：録音や編集を始めるとき、▶▶ボタンと同時に押します。

⑧ SKIP/SEARCHボタン

◀◀：再生中の早戻しや曲の頭出しをします。

▶▶：再生中の早送りや曲の頭出しをします。

電源について

本機の電源には、家庭用電源（AC 100V電源、付属のACアダプター使用）、付属の充電池（LIP-12）または乾電池（単3形アルカリ乾電池2本）が使えます。

家庭用電源で使うには

ACアダプターをつなぐ



ACアダプター取り扱い上のご注意

- 必ず、付属のACアダプター（極性統一形プラグ・EIAJ規格）をお使いください。付属以外のACアダプターを使わないでください。
- 使い終わったら、ACアダプターを本体および電源コンセントから抜いてください。



極性統一形プラグ

充電機で使うには

お買い上げ時、充電機は完全に充電されていません。必ず充電してからお使いください。

1 充電機を本体に取り付ける

充電機の凹部と下端をそれぞれ本体の凸部とIN▼の線に合わせ、押しつけながらカチッと音がするまで矢印の方向に動かします。



2 本体にACアダプターをつなぐ



3 ■ボタンを押す

充電が始まり、BATTシグナルが右下のように変わります。



BATTシグナルの変化

充電時間は、放電しきった状態から90%充電に約2時間、100%充電に約5時間かかります。



4 充電が完了したら、ACアダプターを外し、DISPボタンを押す

時計が数秒間表示され、BATTインジケーターなどが消灯します。

充電機カバーを取り付ける

図のように▲OPENが上にくるよう、付属の充電機カバーを取り付けます。

充電機カバーは取り付けなくても充電機は使えます。

取り外すときは、▲OPENとその反対側の面を持って引き抜きます。



充電機を取り外す

RELEASEつまみを矢印の方向に押しながら、充電機を上へ引き抜きます。



充電機はいつでもできます

- 電池残量の多少にかかわらず、いつでも充電できます。
- 充電機を本体に取り付けたままACアダプターをつないで使う場合、録音または再生をしたあと■ボタンを押すと充電が始まります。

充電機の寿命について

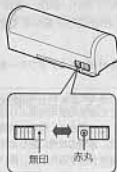
- 充電機は約300回充電して使えます。
- 十分に充電しても、使える時間が通常の半分くらいになったときは、新しい充電機と交換してください。
- 充電機を長持ちさせるために、周囲の湿度が10℃～30℃くらいのところで充電してください。また、保管するときは、涼しいところに置いてください。

ご注意

- 充電には必ず付属のACアダプターを使ってください。
- 初めて充電するときや、長い間放置したあとは、充電しても通常の使用時間より短いことがあります。この場合は、何回か放電と充電をくり返すと、通常の状態に戻ります。
- 充電機の性能を保持するために、長い間使わない場合でも、1年に1回は充電してください。

充電電池の便利な使いかた

- 予備として、市販の充電電池 (ソーニー社製 LIP-12) を用意しておくとお心です。
- 充電電池には「充電確認マーク」があります。充電済みの場合は「無印」側に、使用済みのものは「赤丸」側に手動で切り換えて見分けてください。



表示窓に“TEMP OVER”が表示されたら

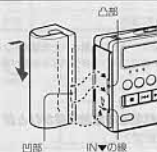
充電できる温度の範囲を外れていることを示します。充電は0℃～45℃の間でしかできません。

乾電池で使うには

市販の単3形アルカリ乾電池を2本使います。(マンガン乾電池では動作しないこともあります。)

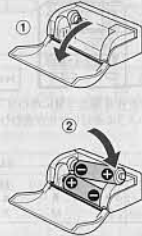
1 バッテリーケースを取り付ける

図のように、バッテリーケースの凹部と下端をそれぞれ本体の凸部とIN▼の線に合わせ、押しつけながらカチッと音がするまで矢印の方向に動かします。



2 乾電池を入れる

- ① ふたを開ける
- ② ⊕、⊖を正しく、単3型アルカリ乾電池2本を入れる



バッテリーケースを取り外す

RELEASEつまみを矢印の方向に押しながら、バッテリーケースを上へ引き抜きます。



電池寿命について

充電電池と乾電池で使える時間のめやすは次のとおりです。

使用電池	連続再生時間	連続録音時間
充電電池	約6.0時間	約3.5時間
アルカリ乾電池	約4.0時間	約1.0時間

※ 使える時間は、十分に充電された充電電池および新しいアルカリ乾電池を使った場合です。ただし、使用状態や環境によって多少異なる場合があります。

充電電池や乾電池の電池残量がひと目でわかります



BATTシグナルは電池残量に合わせて、動作中次のように点灯しかたが変わりません。

電池残量	少ない	←	多い
BATTシグナル	(赤) E	(オレンジ) M	(緑) F

また、充電電池とACアダプターを併用する場合、再生や録音をはじめるとき充電状態を確認するため、BATTシグナルが点灯することがあります。

使用中に電池残量が少なくなると

BATTシグナルのE (赤) が点灯します。また、電池を使いきると“BATT EMPTY”が表示され電源が切れます。このようなときは充電電池を充電するか、乾電池をすべて新しい乾電池に交換してください。

電池の消耗による録音の失敗を防ぐために

電池の消耗によって、録音が途中で切れてしまったりする失敗を防ぐために、特に長時間の録音をするときは、家庭用電源につないで使うことをおすすめします。

表示窓の照明について

家庭用電源で使うと、表示窓は電源が入っているときに明るく点灯します。

充電電池や乾電池で使うと、DISPボタンを押したあと約4秒間点灯します。

電池で使うときに表示窓を点灯させたいときは、「表示窓の照明をつける」55ページをご覧ください。この場合、通常よりも電池の消耗が早くなります。

時計を合わせる

- ・時計を合わせておくと、録音時に自動的に録音日時が記録されます。
- ・時刻は24時間表示です。
- ・電池残量が十分にあるとき、またはACアダプターを使いながら時計を合わせてください。

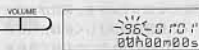


- 1 停止中に、“CLOCK SET”が表示されるまで (3秒以上) DISPボタンを押す**

西暦年の数字 (下2ケタ) が点滅をします。



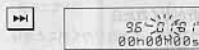
- 2 VOLUME+または-ボタンを押して「年」の数字を合わせる**
+または-ボタンを押し続けると数字が速く変わります。



- 3 >>> ボタンを押して次の項目に移る**

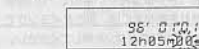
「年」が確定して「月」の数字が点滅します。

>>> ボタンを押すごとに点滅中の項目が確定して次の項目に移ります。



- 4 手順2、3で操作したように、VOLUMEボタンと>>> ボタンを使って「月」「日」「時」「分」の数字を合わせる**

「秒」の数字が点滅しているのを確認してください。



- 5 EDIT/ENTERボタンを押す**
00秒から時計が動き始めます。



- 6 ■ ボタンを押して時計表示を消す**



途中でまちがえたときは

▶▶ ボタンをくり返し押し、訂正したい項目の数字を点滅させ、もう一度 VOLUME ボタンで合わせます。

時計を見るには

時計を見るときは、停止中（表示窓にも出ていないとき）に DISP ボタンを 1 回押します。約 4 秒間時計を表示します。

しばらく使わなかったときは

DISP ボタンを 1 回押して時計表示を確認してください。

時計表示が出なかったり、点滅するときには時計が止まっています。時計が止まっていると録音日時が正しく記録されません。「時計を合わせる」の手順で時計を合わせ直してください。

時計がおくれたら

電池が消耗して時計がおくれたときは、「時計を合わせる」の手順 1～4 で操作したように、「時」「分」など必要な項目の数字を訂正します。時計を合わせている間も「秒」は進んでいるので、00 秒から時計を動かすには、次のタイミングで EDIT/ENTER ボタンを押してください。
「秒」の点滅が 0～29 の間で押すと
 00 秒に戻って動き始めます。
「秒」の点滅が 30～59 の間で押すと
 1 分くりあがって 00 秒から動き始めます。

充電電池を本体から取り外すときは

使用中の充電電池を予備の充電電池やバッテリーケースと交換するときは、時計を止めないために、約 10 分間内部バックアップ電池が作動します。

この約 10 分以内に、充電済みの充電電池または乾電池の入ったバッテリーケースを本体に取り付けてください。

AC アダプターを本体と家庭用電源コンセントにつないでおけば、より確実に電源のバックアップができます。

内部バックアップ電池の作動時間が極端に短くなったときは

お近くのアイワサービスセンターで、内部バックアップ電池の交換をしてください。（交換の目安は充電回数 10,000 回です。）

ご注意

本体内部の時計を止めないために、AC アダプター、充電電池または乾電池の入ったバッテリーケースを本体に取り付けておいてください。

録音する

録音の種類と接続

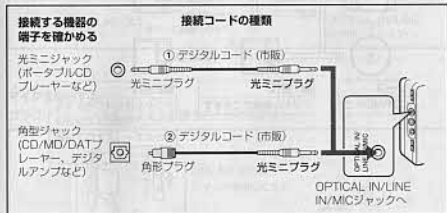
録音には「光デジタル接続の録音」と「アナログ接続の録音」の 2 種類があります。それぞれ音源となる機器や接続端子が異なりますので、以下の説明をご覧になって正しく接続してください。

光デジタル接続の録音

この方式だと、デジタル信号のまま録音するため高音質で録音ができます。また、演奏時間や頭出し位置などの録音内容を認識する情報（TOC: Table of Contents）も自動的に記録されます。CD や MD を丸ごと録音するときに便利です。

光デジタル出力端子と接続する

- 接続コードはしっかり差し込んでください。
- OPTICAL IN/LINE IN/MIC ジャックにはかならず光ミニプラグを差し込んでください。



光（オプティカル）タイプ以外のデジタル出力には接続できません

必ず光タイプのデジタル出力についてください。

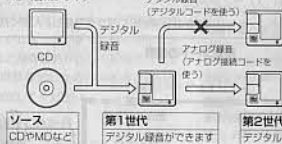
デジタル接続で録音できないことがあります

- サンプリング周波数がミニディスクのサンプリング周波数*44.1kHzと異なる音源から録音しようとするとき
- 録音できないもの：衛星放送、32kHzまたは48kHzで録音されているDAT
- デジタル接続で録音したものを、さらにデジタル録音しようとするとき

SCMS*により録音できない規格になっています。この場合は、ライン（アナログ）入力を使ってください。

- 1 サンプリング周波数とは、アナログ信号をデジタル信号に変換する際の分割周波数のことで、音楽CDなどは44.1kHzを使用しています。
- 2 SCMS（シリアルコピーマネージメントシステム）とは、著作権保護のため、デジタルAV機器どうしでデジタル録音できるのを1世代だけに限った規定です。

MD（音楽ソフト）

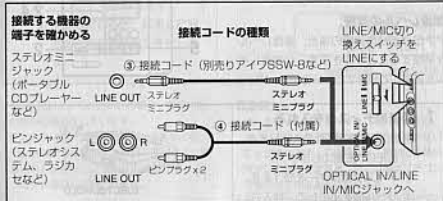


アナログ接続の録音

付属の接続コードを使ってライン出力端子のある機器とつなぎ、手軽に録音ができます。

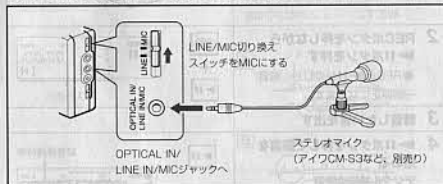
ライン出力端子と接続する

接続コードはしっかりと差し込んでください。



マイクを接続する

プラグイン/パワー方式のマイクを使うことができます。



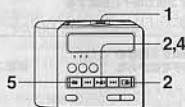
基本の録音

録音を始める前に

HOLDスイッチを解除してください。
 (「誤操作を防ぐために」→51ページ)

録音レベルの調整

アナログ接続の録音の場合、録音レベルを調整することができます。(「録音レベルを調整して録音する」→26ページ)。



1 録音用ディスクを入れる

- ① EJECT ▲/HOLDスイッチをEJECT ▲側にします。
- ② ディスクホルダーを開けます。
- ③ ラベル面を上にして、挿入方向マークの向きにディスクを入れます。
- ④ ディスクホルダーを押して閉めます。



2 RECボタンを押しながら

- ▶IIボタンを押す
 ●RECと▶IIが点灯し、録音一時停止になります。



3 録音したい音を出す

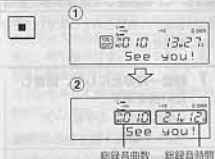
4 ▶IIボタンを押して録音を始める

- デジタル接続の録音
 もとの信号と同じ録音レベルになります。
 アナログ接続の録音
 録音レベルは自動的に調整されます。



5 ■ボタンを押して録音を止める

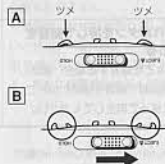
- ① “See you!”が表示され、録音した内容についての情報(TOC*)を記録します。
- ② 記録が終わると、録音した曲数と総録音時間を表示します。



・TOC: Table of Contentsの略で、録音内容の索引の働きをしています。
 ディスクには、実際に記録した音楽などの“音の情報”とは別に、何番目の曲がどこに録音されているかといったTOC情報がディスクの先頭部分に記録されます。

ご注意

- ・はじめてリモコンを本体につないだときなど、リモコン側で録音などの操作ができないことがあります。この場合は、最初に本体のボタンで操作をすると、それ以降はリモコンで操作できるようになります。
- ・ディスクホルダーをロックするツメが図Aのようになっていると、ディスクホルダーが閉まりません。無理にディスクホルダーを押すと、ディスクホルダーの変形の原因になることがありますので、EJECT ▲/HOLDを押してからツメを図Bのように戻してからふたを開けてください。



録音レベルを調整して録音する(録音レベルアジャスト機能)

通常は自動的に調整されていますが、アナログ接続の録音でレベル調整をしたいときはこの機能を使います。

1 録音一時停止にして、録音したい音を出す (「基本の録音」の手順1~3 →24ページ)	
2 MODEボタンをくり返し押して“A.L.C.”*を表示させる	
3 EDIT/ENTERボタンを押して“LINE 10”または“MIC 10”を表示させる	
4 録音したい音を聞きながら、VOL+/-ボタンを押して録音レベルを調整する レベル表示“12”を基準に“OVER”が点灯しない範囲で、なるべく高く調整してください。00~20の21段階で調整できます。	
5 ►IIボタンを押して録音を始める CDなどを録音する場合、接続した機器側で録音を始めたところに戻って再生してください。	

*A.L.C.: Automatic Level Controlの略で、自動録音レベル調整の意味です。

ふつうの録音(自動録音レベル調整)に戻すには

- 録音一時停止中にMODEボタンを押してLINEまたはMICを表示させたあと、EDIT/ENTERボタンを押して“A.L.C.”を表示させます。
- 電源が切れるとふつうの録音になります。

より良い録音をするには

録音レベルが低すぎると音が小さくなり、高すぎると音がひずみます。録音したい音が一番大きくなったときにレベル表示“OVER”が点灯しない範囲で、なるべく高く調節するとより聞きやすい録音ができます。

一時的に録音を止めるには

►IIボタンを押します。再び録音を始めるときは、もう一度►IIボタンを押します。

ディスクを取りだすには

ボタンを押して録音を止めたあと、“EJECT”が消灯してからEJECT▲/HOLDスイッチを▲EJECT側にしてディスクホルダーを開けます。録音中はEJECT▲/HOLDスイッチを▲EJECT側にしてもディスクホルダーが開きません。

電源は自動的に切れます

■ボタンを押して録音を止めたあと、またはディスクの最後まで録音が終了したあと、何も操作せずに放置すると、約4秒後に電源が切れます。ボタンを押して操作を始めると電源が自動的に入ります。

録音中の音を聞くには

LINE OUT/PHONESジャックにヘッドホンをつなぎ、本体のVOLUMEボタン、またはリモコンのVOLつまみでヘッドホンの音量を調節します。ヘッドホンの音量をかえても、録音される音には影響がありません。

一度録音したディスクに録音するときは

ディスクに未録音部分が残っていれば、前回の録音の最後の部分から自動的に録音が始まります。カセットテープのように未録音部分を探す必要がなく、また、誤って前回録音した内容を消してしまう心配もありません。一度録音した内容を取り消して録音したいときは、49~50ページ「曲を消す」の手順に従って録音内容を消去したあと、新たに録音を始めてください。

大切な録音を誤って消さないために録音用ディスクについている誤消去防止つまみを図のように動かします。



再び録音するときは、つまみを元に戻します。

ご注意

- 再生専用のミニディスク（市販の音楽ソフトなど）には録音できません。
- 録音中やTOCの記録中（25ページの手のひら5）に強い衝撃を与えたり、電源を抜いたりしないでください。TOCが正しく記録されないため、再生できなくなることがあります。

表示窓に“NO DISC”が表示されたら

ディスクが入っていません。そのまま約4秒たつと電源が切れます。

表示窓に“PROTECTED”が表示されたら

ディスクの誤消去防止つまみが録音内容を保護する側に動かしてあります。録音するには、ディスクを取り出してつまみを反対側に動かしてください。‘PROTECTED’表示のままで約4秒たつと電源が切れます。

表示窓に“PB DISC”が表示されたら

再生専用のディスクに録音しようとしています。録音用ディスクを使ってください。

録音の便利な機能

- 録音したディスクを内容に合わせてすばやく検索できるよう、3種類の頭出しマーク（曲番）の付けかた（オート/タイム/マニュアルマーク機能）があります。また、頭出しマークを付けずに録音することもできます。
- モノラル録音にすれば長時間録音できます。
- 録音したい音が小さくなると、自動的に録音一時停止にすることができます。



オートマーク機能

「基本の録音」で録音すると、下記のように頭出しマーク（曲番）が自動的に記録されます。

CDやMDのソフトからデジタル入力で録音しているときは

CDやMDに記録されている頭出しマークの情報がそのまま記録されます。

CDやMD	2曲め	3曲め	4曲め
録音 (MD)	2曲め	3曲め	4曲め

▲：頭出しマーク

アナログ入力やマイク入力で録音しているときは

無音録音状態が3秒以上続き、その後音声信号が入力されると、自動的に頭出しマークが記録されます。

無音時			
入力音	♪♪	♪♪	♪♪
録音 (MD)	2曲め	3曲め	4曲め

ご注意

- オートマーク機能を使って録音しても、頭出しマークが正確に記録されないことがあります。
- 頭出しマークには必ず曲番が付きます。曲番の付かない単なる区切りとして頭出しマークを記録することはできません。

5分ごとに頭出しマークを記録する (タイムマーク機能)

会議などの録音に使うと、議事進行に沿って検索するのに便利です。

1 録音一時停止にする (「基本の録音」の手順1~2→ 24ページ)	 + 
2 MODEボタンをくり返し押し して"MARK auto"を表示さ せる	   00:00 MARK auto
3 EDIT/ENTERボタンをくり 返し押しして"MARK time"を 表示させる	   00:00 MARK time
4 ▶IIボタンを押して録音を始 める	

ふつうの (オートマーク) 録音に戻すには

録音一時停止中にMODEボタンを押して"MARK time"を表示させたあと、EDIT/ENTERボタンを押して"MARK auto"を表示させます。

また電源が切れると、オートマーク機能に戻ります。

頭出しマークを付けずに録音する

32ページのマニュアルマーク機能だけを使って録音したいときに便利です。

1 録音一時停止にする (「基本の録音」の手順1~2→ 24ページ)	 + 
2 MODEボタンをくり返し押し して"MARK auto"を表示さ せる	   00:00 MARK auto
3 EDIT/ENTERボタンをくり 返し押しして"MARK non"を 表示させる	   00:00 MARK non
4 ▶IIボタンを押して録音を始 める	

ふつうの録音 (オートマーク) に戻すには

録音一時停止中にMODEボタンを押して"MARK non"を表示させたあと、EDIT/ENTERボタンを押して"MARK auto"を表示させます。

また電源が切れると、オートマーク機能に戻ります。

録音中に頭出しマークを追加する(マニュアルマーク機能)

CDなどの録音中、曲の途中で繰り返し聞きたいところで頭出しマークを付けることができます。

録音中に、頭出しマークを付けたいところでEDIT/ENTERボタンを押す

頭出しマークが記録され、曲番が1つくり上がります。



曲番がくり上がる

記録できる頭出しマーク(曲番)の数は?

最大で254番まで記録できます。

長時間録音する(モノラル録音)

ふつうの(ステレオで)録音をしたときの2倍の長さの録音ができます。

長時間にわたる会議の録音などに便利です。

1 録音一時停止にする

(「基本の録音」の手順1~2→
24ページ)



2 MODEボタンをくり返し押して"STEREO REC"を表示させる



3 EDIT/ENTERボタンをくり返し押して"MONO REC"を表示させる



4 ▶||ボタンを押して録音を始める



ふつうの(ステレオ)録音に戻すには

録音一時停止中にMODEボタンを押して"MONO REC"を表示させたあと、EDIT/ENTERボタンを押して"STEREO REC"を表示させます。

また電源が切れると、ステレオ録音に戻ります。

曲番の記録は

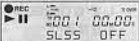
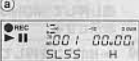
長時間(モノラル)録音とふつうの(ステレオ)録音を切り換えると、そのたびに曲番が1つずつくり上がります。

ご注意

- 録音中の音をヘッドホンで聞くとステレオ音声で聞こえますが、実際はモノラル音声で録音されています。
- ステレオ音声入力録音しているときは、L(左)チャンネルの音が録音されます。
- 本機でモノラル録音したものを他のMDプレーヤーで再生する場合、モノラル再生に対応していない機器では再生できません。

ねらった音だけを録音する (SLSS * 機能)

会議や講演会などで、発言のないとき（無音に近い状態のとき）は自動的に録音一時停止になり、発言がはじまるとその音を感知して自動的に録音を再開します。無音の録音部分をなくし、ディスクを有効に使うことができます。

1 録音一時停止にする (「基本の録音」の手順1~2→ 24ページ)	
2 MODEボタンをくり返し押して"SLSS OFF"を表示させる	 
3 EDIT/ENTERボタンをくり返し押す ⑥ 小さな音にも反応して録音をはじめる場合 *SLSS H*を表示させます。 ⑦ 小さな音には反応せず、大きな音だけ録音する場合 *SLSS L*を表示させます。	  
4 ►IIボタンを押して録音を始める	

* SLSS Sound Level Sensor Systemの略です。

ふつうの録音に戻すには

録音一時停止中にMODEボタンを押して"SLSS H"または"SLSS L"を表示させたあと、EDIT/ENTERボタンを押して"SLSS OFF"を表示させます。

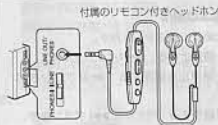
また電源が切れると、ふつうの録音に戻ります。

基本の再生



1 ヘッドホンをつなぐ

LINE OUT/PHONESに接続プラグをつなぎます*1。



2 再生するディスクを入れる

- ① EJECT ▲/HOLDスイッチをEJECT ▲側にします。
- ② ディスクホルダーを開けます。
- ③ ラベル面を上にして、挿入方向マークの向きにディスクを入れます。裏まで入れてください。
- ④ ディスクホルダーを押して閉めます。



3 ►IIボタンを押す

再生が始まります。



4 VOLUMEの+/-ボタンを押して音量を調節する

00~20の21段階で調節できます。



*1 付属以外のヘッドホンの場合、PHONES/LINE 切り換えスイッチをPHONES側にします。

*2 曲名が記録されていないときは表示されません。



基本の操作

止める：■ボタンを押す。

一時停止する：▶||ボタンを押す。

一時停止を解除する：▶||ボタンを押す。

早送りする：再生中に▶▶ボタンを押し続け、聞きたいところで指を離す。

早戻しする：再生中に◀◀ボタンを押し続け、聞きたいところで指を離す。

今再生中の曲をもう1度聞く：再生中に◀◀ボタンを1回押す。さらに前の曲の頭出しをするには◀◀ボタンをくり返し押す。

次の曲に飛ばす：再生中に▶▶ボタンを1回押す。さらに先の曲の頭出しをするには▶▶ボタンをくり返し押す。

ディスクを取り出す：■ボタンを押したあと、EJECT▲/HOLDスイッチをEJECT▲側にする。

倍速で再生する（早聞き再生機能）

再生中に、“X2 PLAY”が表示されるまで▶||ボタンを押します。

ふつうの再生に戻すには

早聞き再生中に▶||ボタンを押します。

電源は自動的に切れます

■ボタンを押して再生を止めたあと、またはディスクの最後まで再生が終了したあと、何も操作せずに放置すると、約4秒後に自動的に電源が切れます。電源が切れると、表示窓の点灯が消えます。

ご注意

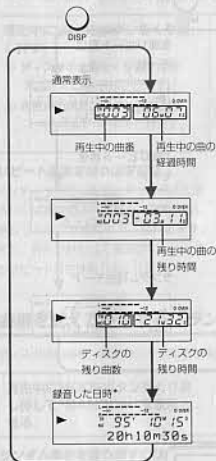
はじめてリモコンを本体につないだときなど、リモコン側で再生などの操作ができないことがあります。この場合は、最初に本体のボタンで操作をすると、それ以降はリモコンで操作ができるようになります。

表示窓に“NO DISC”が表示されたら

ディスクが入っていません。そのまま約4秒たつと電源が切れます。

再生中の表示について

再生中DISPボタンを押すたびに、表示が次のように変わります。



※市販の音楽用ミニディスクや、録音時に録音日時を記録していないミニディスクを再生しているときは、“—”表示になります。

音楽ジャンルに合った音を選ぶ（DSPモード）

音楽特性をいかに3つのモード（ロック、ポップス、ジャズ）と重低音を強調するモード、ライブホールの臨場感を再現するモードの計5つのDSPモードからお好きなモードを選べます。

再生中DSP/SHIFTボタンを押すたびに、次のようにモードが切り換わります。

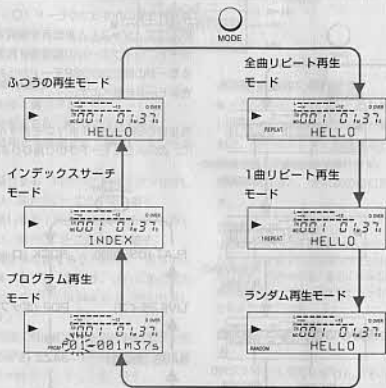


録音中は

DSPモードは選べません。

いろいろな再生のしかた

再生中にMODEボタンを押すと、ふつうの再生方法のほかに5通りの再生方法が選べます。MODEボタンを押すごとに次のように表示が変わります。



くり返し再生する

(全曲リピート再生/1曲リピート再生機能)

ディスク中の曲を、全曲または1曲だけをくり返し再生できます。

再生中にMODEボタンをくり返し押す

- ① ディスクの全曲をくり返すとき
"REPEAT" を表示させます。
- ② 再生中の曲だけをくり返すとき
"1 REPEAT" を表示させます。



リピート再生を取り消すには

インデックスサーチモード ("INDEX"表示) になるまでMODEボタンをくり返し押してから、さらにもう1度押します。また、再生が終わって電源が切れたときもリピート再生は取り消されます。

曲順を変えて再生する (ランダム再生機能)

ディスク中の曲を、順不同に並べ変えて再生できます。

再生中にMODEボタンをくり返し押して"RANDOM"を表示させる

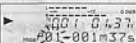
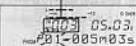
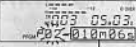


ランダム再生を取り消すには

インデックスサーチモード ("INDEX"表示) になるまでMODEボタンをくり返し押してから、さらにもう1度押します。また、再生が終わって電源が切れたときもランダム再生は取り消されます。

好みの曲順で再生する（プログラム再生機能）

聴きたい曲を好きな順に、25曲まで記憶させて再生できます。

1 再生中にMODEボタンをくり返し押して“PRGM”を表示させる	 
2 1<<または>>1ボタンを押して曲を選ぶ	 
3 EDIT/ENTERボタンを押す 選んだ曲が記憶されます。	 
4 手順2と3をくり返して続けて曲を記憶させる	
5 >>11ボタンを押す 記憶した順に1曲目から再生を始めます。	

プログラム再生を取り消すには

インデックスサーチモード（“INDEX表示”）になるまでMODEボタンをくり返し押してから、さらにもう1度押します。また、再生が終わって電源が切れたときもプログラム再生は取り消されます。プログラム再生が取り消されると、選んだ曲の記憶も取り消されます。

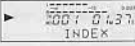
ご注意

25曲以上記憶させようとすると、25曲目が常に新しく更新されます。

曲名で探して再生する（インデックスサーチ機能）

ディスクに曲名が記録されていれば、表示窓に流れる（スクロールする）曲名から聞きたい曲をダイレクトに選ぶことができます。

曲名は、「トラックネーム機能」を使って記録することができます。（43ページ）

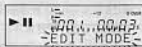
1 再生中にMODEボタンをくり返し押して“INDEX”を表示させる 表示窓にディスク名と曲名がスクロールし始めます。	 
2 聞きたい曲が表示されたところで、EDIT/ENTERボタンを押す 選んだ曲の再生が始まります。	 

表示窓に複数の曲名が表示されたときは
表示窓の一番左にある曲名が選ばれます。

曲名が記録されていない曲は
記録されている曲名だけを順番にスクロールさせます。曲名の記録されていない曲は選ばれません。

編集する

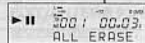
再生一時停止中にEDIT/ENTERボタンを押しながら▶▶ボタンを押し、編集モードにすると、7通りの編集方法が選べます。



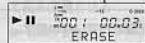
MODEボタンを押すごとに次のように表示が変わります。



オールイレース
モード



1曲イレース
モード



リナンバーモード



トラックネーム
モード



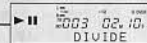
ディスクネーム
モード



コンバインモード



ディバイドモード



リモコンで編集方法を選ぶときは

REC/EDITボタンと▶▶ボタンを同時に押しつづけ、選びたいモードが表示されたところで両ボタンを離します。



ご注意

表示窓に「EJECT」が表示されているあいだ、EJECT▲/HOLDスイッチはEJECT▲側にできません。無理に動かさないでください。

曲やディスクの名前を記録する (トラックネーム/ディスクネーム機能)

1つの曲やディスクに、1つずつ名前を記録できます。

また、曲名の代わりにメッセージなどを記録しても楽しさが広がります。

- 1つの名前として記録できる文字数は、アルファベットの大文字と小文字、カタカナ、記号を合わせて、最大で50文字です。
- 1枚のディスクには、最大で約1,700文字が記録できます（アルファベットの大文字、小文字、記号の場合。カタカナでは約半分の文字数になります。）

1 再生一時停止にする

- 曲に名前を付けるとき
(トラックネーム) :
名前を付けたい曲を再生中に、▶▶ボタンを押します。
- ディスクに名前を付けるとき
(ディスクネーム) :
名前を付けたいディスクのどれか1曲を再生中に、▶▶ボタンを押します。



2 EDIT/ENTERボタンを押しながら▶IIボタンを押し、“EDIT MODE”が表示されたら、MODEボタンをくり返し押す

- ① 曲に名前を付けるとき：
“TRACK NAME”を表示させます。
- ② ディスクに名前を付けるとき：“DISC NAME”を表示させます。



3 1つ目の文字または記号を入力する

- ① VOLUME + ボタンを押して各文字列（種類）の最初の文字を表示させます。
- ② DSP/SHIFT ボタンを押してアルファベットの大文字、小文字、カタカナ、記号の中から文字の種類を選びます。
- ③ 本体のVOLUME +/- ボタンを押して、または、リモコンのVOLつまみを回して入力する文字や記号を選びます。



4 ▶II ボタンを押して文字を決定する

選んだ文字の点滅が止まり、右側に点滅が移ります。



5 手順3と4をくり返して記録したい文字または記号をすべて入力する



6 EDIT/ENTERボタンを押す

入力した文字または記号が記録されます。



入力できる文字の種類

アルファベット大文字：

□ (スペース) ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

アルファベット小文字：

□ (スペース) abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

カタカナ：

□ (スペース) アイウエオカキククコサシスセソタチツチナニノネノ

ハヒフヘホマミムメモヤユヨリルレロワヰヱヱヱヱヱ

記号：

□ (スペース) ! " # \$ % & ' () * + , - . / 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 : ; < = > ?

入居中、文字の間違いに気づいたとき

◀◀または▶▶ ボタンを押して間違えた文字を点滅させ、本体のVOLUME ボタンまたはリモコンのVOLつまみでもう一度入力直します。

途中でやめたいとき

▶II ボタンを押してトラックネーム / ディスクネーム機能を取り消します。再生一時停止になります。

ご注意

- 表示窓に [EJECT] が表示されている間は、EJECT ▲ / HOLD スイッチをEJECT ▲ 側に押してディスクを取り出さないでください。
- [EJECT] が表示中に取り出すと、編集した内容が記録されません。■ ボタンを押して[EJECT] 表示が消えてから取り出してください。
- ディスクの誤消去防止つまみを解除してから編集を始めてください。

2つの曲を1つにする(コンバイン機能)

頭出しマークを消すことで、前後した2つの曲をつなげ1つの曲にできます。

1 つなげたい2曲のうち後の曲を再生一時停止にする (例) 2曲目と3曲目をつなぐときは3曲目を再生一時停止にします。	 3曲目を再生一時停止
2 EDIT/ENTERボタンを押しながら▶IIボタンを押し、“EDIT MODE”が表示されたら、MODEボタンをくり返し押して“COMBINE”を表示させる	
3 EDIT/ENTERボタンを押す 選んだ曲番の頭出しマークが消え、前の曲と一つになります。また、これ以降の曲番も、一つずつくり下がります。	 前の曲番 前の曲からの経過時間

曲名がついているときは

つなげた曲の両方に名前が付いているときは前の曲の名前が残ります。

途中でやめたいとき

▶IIボタンを押してコンバイン機能を取り消します。

再生一時停止になります。

ご注意

モノラル録音したものとステレオ録音したものをつなげることはできません。

曲を分ける(ディバイド機能)

曲の途中に頭出しマークを追加して、2つの曲に分けられます。

繰り返し聞きたい部分を作るのに便利です。

1 曲を分けたいところで再生一時停止にする	
2 EDIT/ENTERボタンを押しながら▶IIボタンを押し、“EDIT MODE”が表示されたら、MODEボタンをくり返し押して“DIVIDE”を表示させる	
3 EDIT/ENTERボタンを押す 頭出しマーク(曲番)が記録されます。また、これ以降の曲の曲番も1つずつくり上がります。	 曲番がくり上がる

途中でやめたいとき

▶IIボタンを押してディバイド機能を取り消します。

再生一時停止になります。

曲の順番を変える (リナンバー機能)

お気に入りの順番で曲を聞きたいときに便利です。
一度変更した曲順は、電源が切れても元に戻りません。

1 曲番を変えたい曲を再生一時停止にする	
2 EDIT/ENTERボタンを押しながら▶IIボタンを押し、“EDIT MODE”が表示されたら、MODEボタンをくり返し押して“RENUMBER”を表示させる “MOVE 000”が表示されてから次の手順に進みます。	
3 ◀◀または▶▶ボタンを押して新しい曲番を選ぶ	
4 EDIT/ENTERボタンを押す 曲番が変わります。	変更した曲番

途中でやめたいとき

▶IIボタンを押してリナンバー機能を取り消します。
再生一時停止になります。

曲を消す (1曲イレース/オールイレース機能)

未録音部分が少なく追加録音ができないときや、ディスクを丸ごと違う録音に使うときに便利です。

1 再生一時停止にする ① 1曲だけ消すとき： 消したい曲を再生中に、▶IIボタンを押します。 ② ディスクの全曲を消すとき： どれか1曲を再生中に、▶IIボタンを押します。	
2 EDIT/ENTERボタンを押しながら▶IIボタンを押し、“EDIT MODE”が表示されたら、MODEボタンをくり返し押す ① 1曲だけ消すとき： “ERASE”を表示させます。 ② ディスクの全曲を消すとき： “ALL ERASE”を表示させます。	① ②
3 EDIT/ENTERボタンを押す “ERASE OK?”が点灯します。消して良いかどうかもう一度確認してください。1度消してしまうと、元に戻すことはできません。消したくないときは▶IIボタンを押します。	

4 EDIT/ENTERボタンを押す

録音内容が消えます。

⑧ 一曲だけ消したとき：

選んだ曲が消されて、次の曲が再生一時停止になります。

また、これ以降の曲番も順にくり上がります。

⑨ ディスクの全曲を消したとき：

約4秒後に電源が切れます。



消した次の曲番がくり上がる

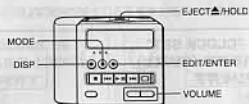
途中でやめたいとき

▶IIボタンを押して1曲イレース/オー
ルイレース機能を取り消します。

再生一時停止になります。

便利な使いかた

録音、再生、編集機能の他にも、使いやすさを実現する機能があります。



誤操作を防ぐために（ホールド機能）

押すつもりのないボタンを誤って押してしまったり、ボタンに何かがぶつかるなどで誤操作が起こるのを防ぎます。

本体ボタンの誤操作を防ぐ場合

本体のEJECT ▲/HOLDスイッチを
HOLD側にします

リモコンボタンの誤操作を防ぐ場合

リモコンのHOLDスイッチを矢印の方
向にします

本体



リモコン



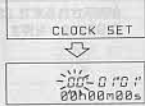
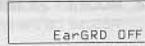
文字（液晶表示）の濃さを変える

表示中の文字（液晶表示）の濃さを変えることができます。

1 停止中に、“CLOCK SET” が表示されるまで（3秒以上） DISPボタンを押す		
2 MODEボタンを1回押す		
3 文字の濃さを見ながら、 VOLUME +/- ボタンを押 して調整する		薄くなる 濃くなる
4 ■ ボタンを押して操作を終了 する		

音量を上げすぎないために（イヤーガード機能）

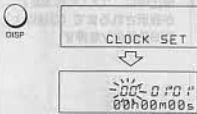
音量の最大値を2通りに設定できます。

1 停止中に、“CLOCK SET” が表示されるまで（3秒以上） DISPボタンを押す		
2 MODEボタンを2回押す “EarGRD OFF”が表示されます。		
3 EDIT/ENTERボタンを押して イヤーガード機能の ON/OFF（入り/切り）を 選ぶ 押すたびに次のように切り替わります。 “EarGRD OFF” ↔ “EarGRD ON”		
4 ■ ボタンを押して操作を終了 する		

・音量は“EarGRD OFF”で最大値20、
“EarGRD ON”で最大値14に設定され
ます。

前に止めたところから再生を始める(リジューム再生機能)

▶ II ボタンを押したとき前に止めたところから再生が始まります。

1 停止中に、“CLOCK SET”が表示されるまで(3秒以上) DISP ボタンを押す	
2 MODE ボタンを3回押す “RESUME ON”が表示されます。	
3 EDIT/ENTER ボタンを押してリジューム機能の ON/OFF (入り/切り) を選ぶ 押すたびに次のように換わります。 “RESUME ON” ↔ “RESUME OFF”	
4 ■ ボタンを押して操作を終了する	

ご注意

再生を始める前にディスクホルダーを開けると、リジューム再生機能は働きません。

表示窓の照明をつける(バックライト機能)

乾電池や充電電池で使っているときにも表示窓の照明をつけることができます。この場合、通常よりも電池の消耗が早くなります。

1 停止中に、“CLOCK SET”が表示されるまで(3秒以上) DISP ボタンを押す	
2 MODE ボタンを4回押す “LIGHT OFF”が表示されます。	
3 EDIT/ENTER ボタンを押してバックライト機能の ON/OFF (入り/切り) を選ぶ 押すたびに次のように換わります。 “LIGHT OFF” ↔ “LIGHT ON”	
4 ■ ボタンを押して操作を終了する	

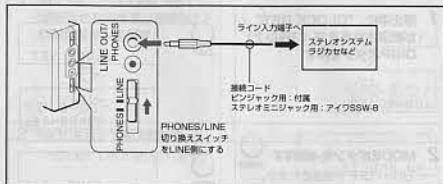
LIGHT ONを選んだときや、ACアダプター使用中は

再生または録音中にDISPボタンを1秒以上押してバックライト機能の入り/切りをします。

一度電源が切れるとバックライト機能は入りになります。

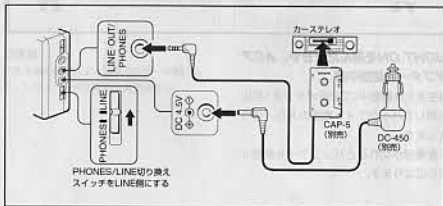
MDの音を他の機器で聞く

- 接続する端子の形状に合った接続コードを用意してください。
- 接続コードは、それぞれの端子にしっかりと差し込んでください。



車の中で聞く

- 別売りのカー電源アダプター (DC-450) とカーオーディオカセットアダプター (CAP-5) を使います。
- DC-450とCAP-5の取扱説明書を併せてご覧ください。
- DC-450を使う場合は、必ず本体から充電電池を外してください。



正しくお使いいただくために

本体の表面が汚れたら

柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどい場合は、薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので、使わないでください。

本体の取り扱いについて

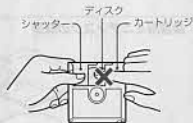
- 落としたりぶつかったりして、強い衝撃を与えないように注意してください。
- 磁石やテレビ、スピーカーなど磁気を帯びたものの近くでの使用や保管は、故障の原因となりますので避けてください。

ミニディスクの取り扱いについて

ミニディスクはカートリッジに収納されているので、ゴミや指紋を気にせずに手軽に取り扱えます。ただし、カートリッジが汚れたり、破損したりすると故障の原因になります。次の点に注意してください。

- ディスクは付属のケースに入れて保管してください。

- カートリッジのシャッターを開けてディスクに直接手を触れないでください。ディスクについた汚れは取りにくく、また、カートリッジの破損の原因となります。



結露について

寒い冬など、暖かい部屋の窓ガラスに水滴の付くことがあります。これを「結露」といいます。次のような場合、内部のレンズ部に水滴が付いて結露現象を起こし、正しく動作しないことがあります。

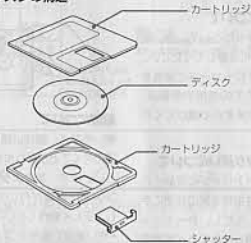
- 寒い部屋で暖房をつけた直後
- 寒いところから急に暖かいところに持ち込んだとき
- 湯気などの湿気の多い部屋に置いているとき

このようなときは、ディスクを取り出し、ディスクホルダーを開けたまま数時間放置してください。正常に動作するようになります。

ミニディスクとは？

ミニディスクは、直径わずか64mmでCD（コンパクトディスク）の約半分の小型ディスクにもかかわらず、CDと同じ74分の情報量を記録・再生することができます。しかも、カートリッジに収納されているので傷やほこり、衝撃に強く、取り扱いが容易です。また、カセットテープのように、伸びたりからんだりすることがないので、耐久性に優れています。

録音用ミニディスクの構造



ATRAC®による小型化の実現

新しく開発された音声圧縮技術ATRACは、聴覚上で重要な周波数を取りだし、実際に人間の耳では聴き取れない音をカットすることにより、情報量を1/5に圧縮し、効率よく記録します。

聴覚心理学に基づいて情報が取捨選択されるので、聴覚上の音質が損なわれることはありません。

・ATRAC: Adaptive Transform Acoustic Coding

高速アクセス

ディスクならではの大きな特長としては、すばやく目的の曲を探しだせることがあります。曲順を入れ替えて演奏するランダム演奏や、録音後に曲を並べ替える編集機能などが瞬時にそして簡単にできます。

2種類のディスク

ミニディスクには、「光ディスク」と「光磁気ディスク」の2種類があります。両ディスクとも、再生はレーザー光で信号を読み取る（光学ピックアップ）という点は同じです。

光ディスク

再生専用のディスクです。CDと同じみなので、市販の音楽ソフトに使われています。録音や編集はできません。



シャッターがラベルの反対面にあります

光磁気 (MO*) ディスク

いわゆる「生ディスク」で、カセットテープのようにくり返し録音することができます。録音にはレーザー光と磁気を使って信号を記録する磁界変調方式を採用していますから、録音や再生をくり返しても、音質が劣化しません。



シャッターが両面にあります

・MO: Magnet Optical

故障かな?と思う前に

サービス窓口にお持ちになる前に、症状によって下の表で調べるが、表示窓にエラーメッセージが表示されている場合は62~63ページを見て調べてください。

症状	原因	処置
電源が入らない	ACアダプターがしっかり差し込まれていない。 乾電池が正しく入れられていない。 充電電池または乾電池が消耗している。('BATT EMPTY'が表示される。またはBATTシグナルのE(赤)が点灯。)	ACアダプターをしっかりと差し込む。(13ページ) 乾電池の+と-を確かめて入れ直す。(17ページ) 充電電池を充電するか、乾電池をすべて新しいものと取り替える。(14ページ)
操作ができない	ディスクホルダーがしっかり閉まっていない。 ディスクが入っていない。('NO DISC'が表示される。) ホールド(誤動作防止)機能が働いている。 結露(内部に水滴が付着)している。 使用中に、衝撃や過大な静電気または落雷による電源電圧の異常のため、強い外来ノイズを受けた。 リモコン付きヘッドホンがしっかり差し込まれていない。 (はじめて)リモコンを本体につないだ。	ディスクホルダーをしっかりと閉める。 ディスクを入れる。 本体またはリモコンのHOLDスイッチを解除する。(51ページ) ディスクを取りだし、ディスクホルダーを開けたまま数時間放置してから操作する。(57ページ) すべての電池やACアダプターを抜いて、←RESETスイッチを押す。 しっかりと差し込む。 最初に本体のボタンで操作してから、リモコンで操作する。
雑音が多い	テレビなど強い磁気を帯びたものがそばにある。	テレビなどから離す。

症状	原因	処置
音がとぎれる	振動の多い不安定な場所に置いている。	振動の少ない場所に置く。
録音や編集ができない	ホールド(誤動作防止)機能が働いている。 音源と正しく接続されていない。 再生専用ディスクが入っている。 録音、または編集集中で電源が抜かれた。または、停電になった。 ミニディスクの誤消去防止つまみが働いている。	本体またはリモコンのHOLDスイッチを解除する。(51ページ) 正しく接続し直す。(21,23ページ) 録音用ディスクに取り替える。 それまでの録音内容が失われているので、もう一度初めから録音し直す。 つまみを動かし、誤消去防止を解除する。(28ページ)
ヘッドホンから音がでない	ヘッドホンがしっかり差し込まれていない。	しっかりと差し込む。
録音日付が狂う/記録できない	充電電池が消耗している。 時計が合っていない。(時計表示が点滅している。)	ACアダプターをつないで充電電池を充電する。 時計を合わせる。(19ページ)
BATTインジケータが点灯しない。 バックライトが消えない。	電源自動検出機能が働いていない。	一度ACアダプターをつないで動作させる。

エラーメッセージ一覧表

エラーメッセージ	意味	対応 (参照ページ)
BLANK DISC	何も録音されていない。	他のディスクと取り替える。
Can't COPY	SCMS規格によりダビングできない。	(22ページ)
Can't EDIT	*曲が短すぎてつなげられない。 1曲めを再生中にコンバイン機能を働かせようとした。 曲の頭でディバイド機能を働かせようとした。 モノラル録音したものとステレオ録音したものを、コンバイン機能でつなげようとした。	/
DISC ERROR	ディスクに傷がある。 TOC情報がきちんと記録されていない。	
DISC FULL	ディスクの残り時間が12秒以下で、録音できない。	
HOLD	本体のホールド機能が働いている。	ホールドスイッチを解除する。(51ページ)
NO DISC	ディスクが入っていない。	ディスクを入れる。
No Signal	光デジタルコードがしっかり接続されていない。 サンプリング周波数が44.1kHz以外のデジタルソースを録音しようとしている。	しっかり接続し直す。 アナログ入力による録音にする。
TEMP OVER	本体の温度が高くなり過ぎた。 周囲の気温が高すぎる／低すぎる。	涼しいところにしばらく放置してから操作する。 適当な気温のところで操作する。
Emergency !	ディスクの傷や強い衝撃により録音を続けることができない。	ディスクを取り替える。本体に強い衝撃を与えない。

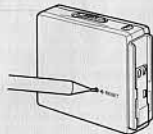
エラーメッセージ	意味	対応 (参照ページ)
Caution !	異常な動作状態になっている。	← RESETスイッチを押す。
BATT EMPTY	電池が消耗している。	充電電池を充電する。または乾電池を2本とも新しいものと取り替える。(14ページ)
PB DISC	再生用ディスクに録音をしようとした。	録音用ディスクで録音をする。
PROTECTED	ディスクの誤消去防止状態になっている。	誤消去防止つまみを解除する。(28ページ)
TOC FULL	録音や編集によって曲数や文字数が多くなり、これ以上録音や編集ができない。	/
LINE OUT	PHONES/LINE切り換えスイッチがLINEになっているとき、音量を調節した。	
		ヘッドホンで聞くときは、PHONES/LINE切り換えスイッチをPHONES側にする。

・ミニディスクには、次のような制約があります。

同じディスクで録音や消去、編集をくり返すと、連続したデータの途中に空きができてきます。ある曲を録音する場合、この空きに1曲分のデータを分散して録音することがあります。このように1つのデータが分散されて録音されていて、しかも長さが8秒以下の場合、コンバイン機能を使って曲をつなぐことはできません。また、総録音時間が表示よりも短くなる場合があります。

リセットについて

本機が正常な表示や動作をしないときは、図のようにシャープペンシルの先などで ←リセットスイッチを押して本機を初期状態に戻してからお使いください (リセット)。



主な仕様

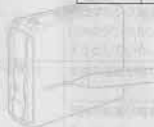
形式	ミニディスクデジタルオーディオシステム
読み取り方式	非接触光学式読み取り（半導体レーザー使用）
録音方式	磁界変調オーバーライト方式
回転数	約400~900rpm (CLV)
サンプリング周波数	44.1kHz
チャンネル数	ステレオ2チャンネル モノラル1チャンネル
変調方式	EFM
A/D、D/A変換器	1bit
周波数特性	20~20,000Hz ± 1 dB
ワウ・フラッター	測定限界 ($\pm 0.001\%$ W.PEAK) 以下

入力端子

	端子形状	基準入力レベル	最小入力レベル
マイク	ステレオミニジャック	1.0mV	0.5mV
ライン入力	ステレオミニジャック	250mV	125mV
デジタル入力	光ミニジャック	—	—

出力端子

	端子形状	規定出力レベル	最大出力レベル	負荷インピーダンス
ヘッドホン	ステレオミニジャック	—	10mW+ 10mW	16 Ω
ライン出力	ステレオミニジャック	250mV	—	10k Ω



電源

充電電池（リチウムイオンバッテリー-LIP-12）DC 3.6V
乾電池（アルカリ単3形2本）DC 3V
家庭用電源（ACアダプター、AC-421使用）AC100V、50/60Hz
カー電源（カー電源アダプター、別売品DC-450使用）DC 12V/24V

電池持続時間

	連続再生時間	連続録音時間
充電電池	約6.0時間	約3.5時間
アルカリ乾電池	約4.0時間	約1.0時間

＊充電電池は完全充電時

最大外形寸法

約109.3×81.8×26.5mm（幅×奥行き×高さ）（充電電池カバー含む）

重量

約290g（充電電池含む）

- 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本機は、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。

保証書とアフターサービス

保証書について

この製品には保証書がついています。
保証書は、お買い上げ時に、販売店が「お買い上げ年月日、販売店名」を記入してお渡しいたします。記入事項および記載内容を確認の上、大切に保存してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をご覧ください。
それでも調子が良くならないときは、お買い上げ店またはアイワサービスステーション（別紙）にご相談ください。

保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。

保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。この期間を経過した後も修理可能な場合がありますので別紙のアイワサービスステーションにお問い合わせください。

著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
なお、この商品の価格には、著作権法の定めによる、私的録音補償金が含まれています。
＜お問い合わせ先＞（社）私的録音補償金協会
☎ (03)3506-8407＞

また、放送やレコード、ディスク、テープなどの音楽作品も、著作権法により保護されています。従って、それらから録音したテープやディスクを

- 売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりすること
- 営利（店のBGMなど）のために使用する

ことは、権利者の許諾が必要です。
詳しい内容や申請、その他の手続きについては、「日本音楽著作権協会」
＜JASRAC＞ ☎ (03)3502-6551＞にお問い合わせください。

OPERATING INSTRUCTIONS

TO OPERATE CORRECTLY

CAUTION

- This unit is for domestic use only. Connect the supplied AC adaptor to an AC 100 V wall outlet only. Using the AC adaptor with other voltages may cause electric shock or fire.
- Never attempt to disassemble or tamper with this unit as the laser beam used in the mechanism can be extremely harmful to the naked eye.
- Do not let any foreign objects or liquid fall into the jacks or the gaps of this unit as you may get electrocuted or the unit may become damaged.
- Do not expose the unit to excessive heat, direct sunlight, dust, moisture or mechanical shock.
- Surrounding sounds may become inaudible when listening to this unit at high volumes. Avoid listening to the unit in situations where hearing must not be impaired, for example while driving or cycling.

Caution on batteries

- Note on the rechargeable battery**
- Use only the supplied AC adaptor for charging. Do not use any other AC adaptor.
 - Do not use the rechargeable battery for other equipment.
 - Do not carry the battery together with metal objects.
 - Do not short-circuit the terminals.
 - Do not disassemble the battery or heat it or put it in water.
 - Do not expose it to excessive vibration or shock.

Note on optional dry cell batteries

- Do not use old batteries with new ones or mix different types of batteries together.
- Do not disassemble the battery, heat it or put it in water.
- Do not attempt to charge the battery.
- If the unit is not to be used for a long period of time, remove the batteries. If battery leakage occurs, wipe the fluid in the battery case well with a dry soft cloth.

Note on the MiniDisc

- Do not touch the disc inside the cartridge of the MiniDisc.
- Do not expose the MDs to excessive heat, direct sunlight, dust or moisture.

Cleaning

Wipe the cabinet with a dry soft cloth. If it is very dirty, wipe it with a cloth slightly moistened with mild detergent solution. Do not use thinner, benzoin or alcohol as doing so may mar the finish.